

スイカ



学名 *Citrullus lanatus* (Thunb.) Matsum. et Nakai
和名 スイカ
英名 Watermelon
原産地/生育地
南アフリカ (カラハリ砂漠)
植物分類: ウリ科スイカ属
発芽適温 25~30℃
生育適温 25℃前後

スイカには、果糖やブドウ糖などの糖質が多く含まれていて、疲労回復によく、暑い日に冷やしたスイカの味は格別です。また、ビタミンA、B₁、B₂、Cなどが含まれ、スイカは量が採れるので、栄養補給になります。果肉の赤色は、リコピンとカロテンによります。カリウム、マグネシウムなどが多いアルカリ性食品です。

スイカは高い気温と強い光を好む野菜で、日当たりがよい畑でよく育ちます。土壌はあまり選びませんが、水はけがよいことが条件です。施肥では元肥のチッ素が多いとツルがですぎて着果が悪くなるので、元肥のチッ素は控えめにします。連作すると土壤病害のつる割病が発生しやすくなるので、4~5年の輪作をするか、接ぎ木栽培にします。

【品種選び】スイカは、大きさには大玉 小玉、形には球形 楕円形、外皮には縞模様のもの 縞なしのもの、地色には緑 黒色 黄色のもの、果肉の色には赤 黄があり、珍しくは白色(奈良漬け用)があるなど、多種多様な品種がありますが、主流は大玉 球形 縞模様 赤肉です。日本の技術で開発されたタネなしスイカは日本ではあまり普及していません。また、タネが大きく、炒って味つけしたものを食べる種子食用種もあります。

1 タネまき・間引きなど育苗管理

タネまきは、ポット(9~12cm)まきとします。直径4~5cm、深さ1cmくらいの穴を掘り 3~4粒をまいて土をかぶせ、手で軽く押さえて水やりします。発芽後、本葉1~2枚の時に2本に間引きし、本葉2~3枚で1本立ちにします。

1. ポットへのタネまき 25~30℃に保温(発芽まで)



1. 直径4~5cm、深さ約1cmの穴にタネを3~4粒まく
2. 土をかけ平らにし、軽く押さえ、水やりをする
3. 4日ほどで発芽する

2. 間引き 1.本葉1~2枚時 2.本葉2~3枚時 3.定植適期苗



- 2本に間引く 1本に間引く 本葉4~5枚

POINT 確実な発芽には保温を!

発芽までは25~30℃になるよう保温します。4日ほどで発芽します。定植適期苗は本葉4~5枚(タネまき後40~45日程度)です。

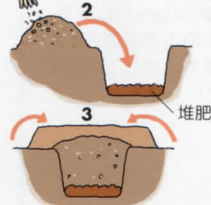
2 畑の準備~定植または直まきまで

定植2週間以上前に苦土石灰を施して耕します。1週間前に畝内の定植場所に堆肥と元肥を散布して耕し、床を作り 黒のポリマルチをしておきます。定植は根鉢をくずさないように浅植えにし、水やりします。この時、晩霜のおそれがある時はホットキャップを被せて保温します。

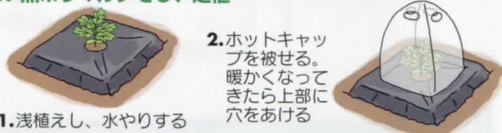
1. 定植の2週間以上前 苦土石灰を1㎡当たり2握り(約100g)まき、よく耕す

2. 1週間前

1. 40cm四方、深さ約30cmの穴を掘り、堆肥を約2kg入れる
2. 掘り上げた土に、化成肥料(N P:K=8:8:8)を1握り(約50g)混ぜ、穴に戻す
3. 周りの土をかき寄せて床を作る(縦×横60cm、高さ10cm)



3. 黒ポリマルチをし、定植



1. 浅植えし、水やりする

2. ホットキャップを被せる。暖かくなってきたら上部に穴をあける

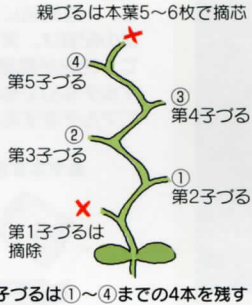
POINT 活着までは十分な保温を!

苦土石灰は1㎡当たり2握り(約100g)、1穴(40cm四方 深さ30cm)当たり堆肥は2kg、元肥は化成肥料(N P K=8 8 8)を1握り(約50g)とします。ポリマルチは保温と雑草抑えのために有効です。晩霜のおそれがなくなったらホットキャップははずします。

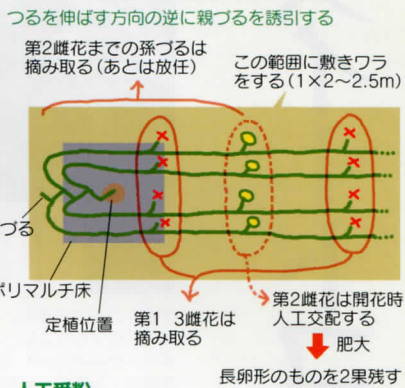
3 整枝、着果、追肥などの栽培管理

親づるは本葉5~6枚で摘芯し、第1節の子づるは摘除し、他の子づるを4本残します。子づるの生長に合わせてワラを敷き 絡みあわないように配置します。第2雌花までの孫づるは摘み取ります。各子づるの第2雌花が開花したら人工授粉し、着果が卵大の時、長卵形のを2果残します。追肥は子づるが50cmくらいに伸びた頃と果実が卵大になった頃の2回行います。

A. つるの整枝



B. つるの仕立て方と着果(株間1m)

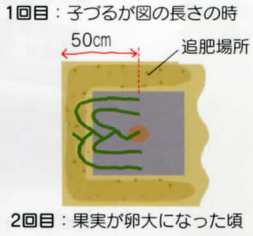


POINT

確実な着果のため人工授粉を!

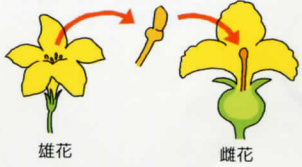
第1の雌花は6~8節につき、その後、7~8節ごとに第2、第3の雌花がつきます。雌花が開花する朝9時頃までに人工授粉を行い、日付けを書いたラベルをつけます。第1や第3着果は通常、変形果になりやすいので摘除します。追肥量は、1回1株当たり1握り(約50g)とします。

追肥 化成肥料を1握り(約50g)



人工授粉

1. 花弁をとる
2. 軽くなすりつける



4 病虫害

病害では、果実の肥大中に急にしおれて最後には枯れてしまう「つる割病」に最も注意が必要です。そのほかにはつる枯病、べと病が発生します。害虫はアブラムシ ハダニによる被害が大きいので早めに防除をします。

●つる割病



POINT

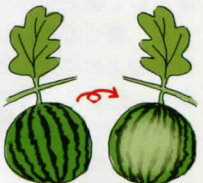
つる割病が出たら 抜き取り処分!

つる割病が発生したら、治すことができないので抜き取って処分します。その後4~5年はスイカを栽培しないようにします。なお、この病害はユウガオ台木などへの接ぎ木で回避できます。

5 収穫

開花後30日過ぎに、それまで日陰であった方を日が当たるように置き直し(玉直し)をします。大玉系の収穫まで日数は開花後45~50日、小玉系は35~40日が目安です。収穫まで日数は品種で異なるので タネ袋などで確認してください。

●玉直し



●収穫の目安



POINT

収穫の目安は 開花からの日数で!

開花日ラベルがない時の収穫の目安は、果実では手のひらでたたくと鈍い音がる、着果節の巻きひげが半分枯れる、などがあります。

<ラベルがない場合の目安>
軽くたたくと鈍い音がる
巻きひげが半分ほど枯れている

栽培暦

栽培地	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
寒冷地 冷涼地				●	●	●	●	●	●	●	●	●
温暖地	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
暖地	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

● タネまき — 育苗・生育 ● 定植 ■ 収穫

サカタのタネ

失敗しない
野菜栽培からの引用